

*明けましておめでとうございます！ 年賀状を添付します。良い年になりますように！

/// I N D E X ///

- ・ ISO 情報-----LCA 関係の ISO の 2023 年の発行と活動の予定
1月23日(月)午後:日本LCAフォーラムの「国際動向セミナー」
- ・ LCAF からお知らせ…「LCAF: LCA 初級検定」を 2023 年 2 月 4 日(土)に行います。
- ・ 編集後記-----クリスマスからお正月

■■ ISO 情報: LCA 関係の ISO の 2023 年の発行と活動の予定■■

明けましておめでとうございます。2023 年に発行予定(発行されそうな)、私がかかわっている ISO 規格をまとめておきます。題名は私の勝手な仮訳です。英語名はインターネットで確認してください。私の感想も付しておきます。

○ISO14083 (輸送業務における温室効果ガス排出量の定量化と報告)

FDIS 投票が済んでいますので、すぐに発行されると思います。人と貨物の陸上・海上・航空輸送の GHG 排出量の算定方法が示されています。私のような輸送の利用者には、ファーストクラスとエコノミークラスの GHG 排出量の算定方法などが気になりました。輸送業に携わる人には、貨物 1 個または 1kg の GHG 排出量どう算定するか、重要な規格と思います。

ただ、陸上・海上・航空輸送を全部入れたので、全体で 120 ページもある規格です。陸上輸送の業務の人には航空は関係ないので、枝番を付けて別の規格にするようにコメントしたのですが、かないませんでした。ISO 規格は購入しないと手元に届かないので、価格がいくらになるのか心配です。

○ISO14068 (カーボンニュートラリティ)

昨年 11 月の末に DIS にすることが決まりました。コメント募集の DIS 文書がまだ届きません。この規格では、カーボンクレジットを購入するオフセットを用いてカーボンニュートラルを宣言することが認められます。昨年出た IWA42 (ネットゼロ) との関係も Annex に書かれることになっています。残念ながら、削減貢献量は序文で紹介されるだけになってしまいました。2024 年の早い時期の発行を目指して作業中です。

○ISO59014 (タイトルの変更が投票になっています) 1月10日締め切りです。

現状のタイトルは「Secondary Materials - Principles, sustainability and traceability requirements(二次材料-原則、持続可能性及びトレーサビリティに関する要求事項)ですが、これを「Environmental Management and Circular Economy - Sustainability and Traceability of Secondary Materials Recovery - Principles and Requirements (二次材料回収の持続可能性及びトレーサビリティ - 原則及び要求事項)にする変更です。大きな違いはありませんが、この規格がサーキュラーエコノミーの規格グループの一部であることを示したいと言う意図があるように思います。

この規格は、もともとは電機・電子機器からの 2 次金属の製造を健全にすることを目的とした IWA19 の格上げとしてはじまりました。TC323 (サーキュラーエコノミー) と TC207/SC5 (LCA) の協働 WG になったので、サーキュラーエコノミーの人たちの意見が強くなっています。

昨年 11 月のワーキンググループで CD にすることが決まって、各国のコメント募集中です。CD なのですが、Annex も不十分ですし、かなり雑なつくりです。2024 年当初の発行を目指しています。

この他の TC323 (サーキュラーエコノミー) の最初の 3 つの規格、ISO59004 (用語と原則)、ISO59010 (ビジネスモデルのガイダンス)、ISO59020 (サーキュラリティの測定と評価) は、すでに DIS 投票が行われ、FDIS にするコメント処理の最中です。2023 年中には発行されると思います。もう一つの ISO14040:製品のサーキュラリティのデータシートはもう少しかかりそうです。

これらの規格は、ガイド規格なので「要求事項 (shall)」はいれないという約束で議論してきたのですが、ISO59020 の中に shall を入れる提案がなされて投票中です。この結果は次回以降の

LCAF 通信で報告します。

○ISO14075 (ソーシャル LCA)

昨年 12 月に CD のコメントを提出しました。1 月 30 日 (月) から 2 月 2 日 (木) にコメント処理の WG がオンラインではじまります。欧州で行われている「リファレンススケール法」と「インパクトパスウェイ法」の二つを、LCA の 4 つのフェーズにあてはめる作業を行っているのですが、あまりうまくいっているとは思えません。2024 年の発行を目指しています。

○ISO/TS14076 (Eco-Technoeconomic Analyses : eTEA)

私の理解では、もともとは化学プラントの経済性評価のツールを環境影響評価に拡張するものです。昨年 8 月にカナダのコンビナーを含めて 11 人で第 1 回の WG で新しい作業提案に対する議論を行って以来、何の連絡もありません。新しい WD が来るのを待っている状況です。

○ISO14064-1 (組織における温室効果ガスの排出量及び吸収量の定量化及び報告のための仕様並びに手引き) と

○ISO14069 (ISO14041-1 の適用のための手引き)

この二つが「組織」の GHG 排出量の算定方法を示す文書です。ISO14069 にあった「削減貢献量」の Annex を ISO14064-1 に移すことが決まっています。また、ISO14064-1 に「削減貢献量」を入れる改訂を行うことになっていますが、具体的な文書が出ていません。

1 月 19 日にオンラインで「削減貢献量」のワークショップが予定されており、そこで今後の活動が議論されることになっています。次回の LCAF 通信で報告します。

○ISO/TS17072:2014 (組織の LCA に関する要求事項及び指針)

昨年 11 月に行われた TC207/SC5 の総会で TS から IS (国際標準規格) に格上げすることが決まりました。3 月 10 日が締め切りの CD としてのコメント募集が始まっています。

この規格は、企業が製造する製品の LCA を合算すると「組織」の LCA になるというのが、基本のコンセプトになっています。製造業には適していますが、金融業など直接的な「生産システム」を持たない「組織」には実施しにくい側面があるように思います。

EC (欧州委員会) の「環境フットプリント」の「組織」版が、組織の比較を可能にすると言って始まったので、この TS の開始はそれに対抗する意味がありました。また、Scope3 基準が製品の生産とは直接関係しないカテゴリーも含むので、それらを排除する意味もあったと記憶します。

現在、Scope3 基準を使う企業が増えている中で、この規格を IS にしてもどれだけ普及するか心配です。ISO は結局は産業界の自主活動です。使われない規格にならないように、利用者の立場で改訂してほしいと思います。

○ISO/TS14071:2014 (クリティカルレビューのプロセス及びレビューアの力量)

この TS も昨年 11 月に行われた TC207/SC5 の総会で TS から IS に格上げすることが決まりました。ISO14044:2006 に示されたクリティカルレビューの補足になります。ISO14044:2006 では、クリティカルレビューは 2 種類あります。通常は、内部または外部の専門家によるクリティカルレビューで、実施するかしないかは任意です。もう一つは、3 人以上外部の専門家のパネルによるクリティカルレビューで、「一般開示を意図する比較主張」では必ず実施しなければならないことになっています。しかし、そもそも「一般開示を意図する比較主張」には厳しい制限があるので、この 3 人以上の専門家によるクリティカルレビューは、通常のクリティカルレビューの「厳しい版」と受け止められています。私も海外企業の LCA 報告書の 3 人以上のクリティカルレビューのパネルに何度か参加しています。

現行の ISO/TS14071:2014 は「マネジメントシステム」ではないので、専門家の登録制度もありません。この TS には、専門家としての自己チェックの表が付いていて、3 人以上のパネルによるクリティカルレビューでは、このチェックリストを提示することになっています。LCAF が 3 人以上のパネルによるクリティカルレビューの実施を行う時には、パネルの委員にこのチェック表の提出をお願いしています。

○ISO/NP 14019-1 (サステナビリティ情報の妥当性確認及び検証 - 第 1 部: 一般原則及び要求事項) 及び ISO/NP 14019-2 (サステナビリティ情報の妥当性確認及び検証 - 第 2 部: 検証プロセス)

TC207/SC2 (環境監査) で、この二つの規格を作るかどうかの投票が始まっています。3 月 1

日締め切りです。私は **SC2** の委員ではないので、直接の関与はありませんが、**TC207** の国内審議委員会の委員としてコメントしようと思っています。今作業中の **ISO14068** はGHG排出量の「カーボンニュートラリティ」ですが、「サステナビリティ情報」はカーボンだけではありません。どのように情報の妥当性を示すのか、関心があります。

○1月23日(月)午後：日本LCAフォーラムの「国際動向セミナー」

「ISOの動向」のセミナーです。申し込みは以下です。

<https://www.lca-forum.org/seminar/index230123.html>

プログラムは、(敬称略です)

新たなCFPなど最近の環境政策：経済産業省環境経済室：内野 泰明

TC323 (サーキュラーエコノミー)：東京大学 大学院工学系研究科：梅田 靖

JointWG14 (二次材料)：三菱UFJリサーチ&コンサルティング：村中 潤

ISO14068 (カーボンニュートラリティ)とIWA42 (ネットゼロ)並びにISO14064-1と69の
改変：一般財団法人 日本エネルギー経済研究所：工藤 拓毅

ISO14083 (輸送のISO)：ヤマト運輸株式会社：星 雄一朗

ISO14075 (ソーシャルLCA)：Persefoni Japan G.K. 高野 惇

全体のQ&A：モデレーター：稲葉 敦

■■ LCAFからのお知らせ ■■

- ・「LCAF：LCA初級検定」を2023年2月4日(土)に行います。
LCAの知識の確認のためにご利用ください。中級検定は3月です。

■■ 編集後記 ■■

年始なので、良い機会だと思って、私が関与しているISOを書き出してみました。この他にもISO14001(環境マネジメント)を使用して環境トピック領域内の環境側面及び状態に取り組むための指針(ISO14002)の第4弾(Resources and waste)の提案へのコメントを出すという仕事などもあります。手が回らないのが実情です。TC207/SC1の人たちにお任せしています。

昨年特に、カーボンニュートラリティやネットゼロなどの脱炭素の活動が目立ちました。しかし、社会の関心は脱炭素だけでなく、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)など、環境全体へ、さらにはソーシャルへ、SDGsへ向かっています。メトロ(地下鉄)でもSDGsのポスターを見るようになりました。SDGsを知っていてもLCAを知らない人がたくさんいます。LCAはまだその実力を発揮してないのだと思います。

「稲葉さんは何歳ですか？」と良く聞かれるようになりました。年の初めですので、普段は忘れて自分の年を数えます。うーん、まだはたらくんかいな??? ISOもLCAFも誰かに継いでもらわなければなりません。「稲葉さんが頑張るすぎるから、後継者がでないんだよ」と言われたこともあります。「後継者がいないから私がいつまでも頑張らなければならないのではないか」とも思うのですが、鶏と卵なんでしょうか???

鶏と卵と言えば、、、この年末に近くのクリニックに「認知症診断」に行きました。○歳(内緒です)になったので、練馬区から診断の案内が来たからです。「診断セット」が用意されていました。「100から7を引くといくつですか?」、「{93}」、「そこからまた7を引くと?」、「{うーん、にわかには、、、}、という調子です。結果は「まだ大丈夫」と診断してもらいました。仕事があるからボケないのか、ボケていないから仕事ができるのか、、、鶏と卵です。

先生が言うのには、防止には「からだ全体の刺激を楽しむ」、「たとえば、雪を触って全身で感じる」ことが良いそうです。しめしめです。休暇を取ってスキーに行く良い理由ができました。

雪国の人には申し訳ないのですが、静岡県人は雪を見るとテンションが上がります。今年もスキーに行く予定です。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見、ご感想、本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本LCA推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで)ください)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7
アルテール池袋 608
電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp
URL:<https://lcaf.or.jp/>